

「鹿児島県の近現代」教育研究拠点整備事業 スタートアップシンポジウム

趣旨説明

2022年3月26日（土）

鹿児島大学法文学部長
松田 忠大

1. 本シンポジウムの趣旨・目的

趣 旨

法文学部を中心に鹿児島大学に「**鹿児島近現代**」に関する教育研究拠点を整備することで、

①**大学は地域のために何ができるのか、**

②**地域の皆様が大学に何を望むのか、**

ということについて、**広く地域の皆様を交えて意見交換**を行うこと

近現代研究関連の**専門家の集会ではありません**

【その前提として】

□鹿児島大学法文学部が進めようとしている「**鹿児島近現代**」教育研究拠点整備事業の**目的・狙い**は？

→ **概要説明**とこの事業での（大学の教員が考えた）**取組例**や**イメージ**（**たたき台**）の紹介

□**鹿児島に「近現代」の教育研究拠点を整備することによってどのような意味があるのか？**

→ 原口泉志學館大学教授・鹿児島大学名誉教授によるご講演

□地域の皆様に、**地域**や**本学**が所蔵する「**貴重な資産**」と、これらを活用した、**これまでの取組事例**を知っていただく

□パネルディスカッション：「『**鹿児島近現代**』教育研究拠点に**期待されること**」

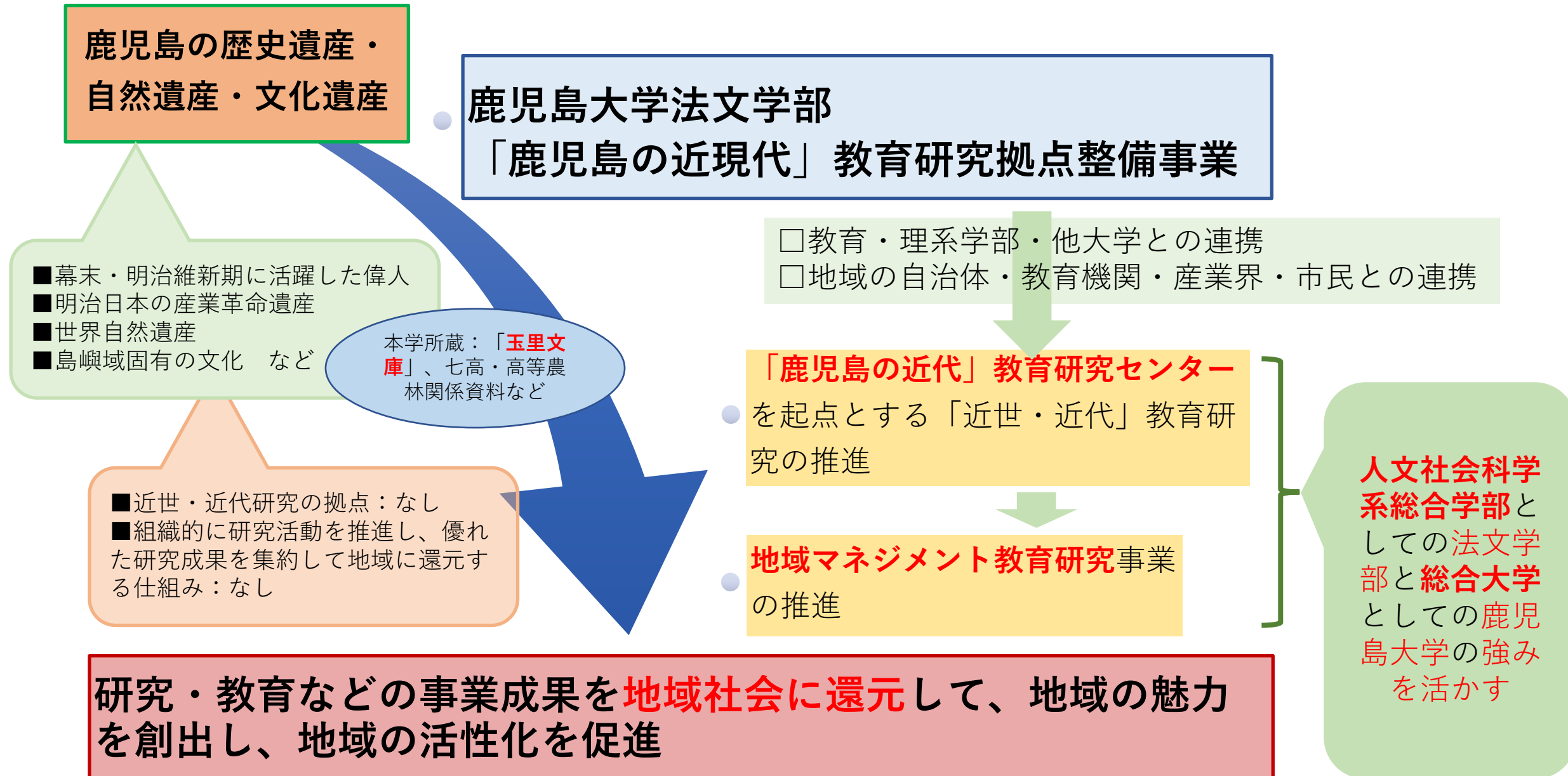
・ご参加の**皆様からのご意見・ご質問**を踏まえて5名のパネリストと参加者による議論を展開

目 的

■基調講演、取組事例、5名のパネリストによる議論を踏まえて、**地域の皆様からのご意見・ご要望**を伺い、今後の事業計画に活かすこと

ご参加いただいた**地域の皆様**が**主役のシンポジウム**です

2. 「鹿児島県の近代」 教育研究拠点整備事業の背景・目的



3. 「鹿児島県の近代」 教育研究拠点整備事業における具体的な取組み

「鹿児島県の近代」 教育研究センター事業

地域・本学が所蔵する「**近世・近代**」に関する**歴史的に貴重な遺産**（書籍、遺跡・遺物、文化財）の**保存・データベース化**を推進し、これらに基づく**鹿児島県の近世・近代史研究**を活性化させ、その成果を地域社会に還元し、社会実装するための基盤を形成

具体的な取組内容（プロジェクト）の例

- 一次資料の収集（民間・学校史・企業史）
- 資料のデジタル化・データベース化
- 近世・近代史研究の資料集・論文集の刊行

教育研究
基盤整備

- 本学における歴史教育プログラムの開発
- 歴史をテーマとしたシンポジウム・講演会の開催
- 資料解読のための市民向け講座の開催
- 地域の文化財保存事業への参画
- 観光やまちづくりへの歴史資料等活用法の研究
- 理系分野と連携した歴史研究・技術開発

地域への還元

地域が有する
歴史的貴重な遺産（書籍、遺跡・遺物、文化財）、**自然遺産**、**文化遺産**

- 学外の研究者（他大学・博物館等）
- 高等学校教諭
：特任研究員として採用

- 本学教員
・法文学系＋他学系（教育・理系）
・**特任教員**（新規採用）
- 学芸員**（新規採用）

□特任専門員の新規採用

法文学部・人文社会科学部等における教育

本学附属図書館・博物館ほか
学内関係組織

鹿児島県歴史・美術センター黎明館

尚古集成館

自治体

産業界

地域マネジメント教育研究推進事業

地域の資源を活用した「**まちづくり研究**」、「**奄美研究**」、「**地域産業研究**」をさらに推進するとともに、「鹿児島県の近代」研究センターにおける「近代」研究成果と、これらの成果を結びつけて、SDGsの達成を視野に入れた、「**まちづくり（離島の教育・福祉政策等を含む）のあり方**」、「**観光業・農水産業の活性化などの地域振興策**」を提案するための取組みを推進

具体的な取組内容（プロジェクト）の例

- 歴史研究成果を活用した教育研究プロジェクト基盤形成
- 地域課題の発掘・調査の実施

教育研究
基盤整備

- 小中高校、地域社会と連携した歴史・郷土教育の実施
- 歴史資料等を活用した地域マネジメント教育の実施
- 観光業との連携による歴史資料等を活用した観光旅行（教育・一般旅行）パッケージの開発
- 自治体と連携による歴史資料等を活用したまちづくり、防災に関する政策立案への参画
- 歴史資料を活用した文化・生活に係る課題解決策の立案
- 産業界との連携による歴史資料を活用したSDGsの達成に向けた食品開発、農業・水産業・畜産のあり方の検討

地域への
還元

- 本学教員
・法文学系＋他学系（教育・理系）
・**特任教員**（新規採用）

- 学外の研究者（他大学・博物館等）
- 自治体関係者
- 民間企業関係者

4. 「鹿児島県の近代」教育研究センターを中心とした取組例（イメージ）

地域資源

鹿児島大学所蔵の 歴史的貴重書群

- ・ 玉里文庫、岩元文庫
- ・ 七高関係資料
- ・ 高等農林関係資料 など

地域に所在する 歴史的遺産

- ・ 黎明館所蔵資料
- ・ 尚古集成館所蔵資料
- ・ 博物館所蔵資料
- ・ 民間（企業・市民所蔵資料）
- ・ 遺跡、遺構、遺物
- ・ 無形文化財、伝統芸能 など

地域資源の活用とその成果

学術研究の推進

幕末・明治維新
期を中心とした
研究拠点形成

近現代関連の高
いレベルの学術
研究の推進

人材育成への活用

本学における歴史教育、地域マネジメント教育活用：**地域貢献人材の育成**

小中学校における**郷土教育**関連資料の作成

高等学校の**歴史教育**や「**課題研究**」との連携

社会教育への参画

一般市民向け講座・講演会・シンポジウムの開催

産業界との連携

教育旅行・一般旅行パッケージの開発
・ 歴史的資料に基づく**観光ルート**の提案
・ 専門家による**セミナー**

観光

鹿児島大学を
観光ルートに

その他の
地域産業

伝統的「**食**」の現代
における活用

文理融合

古文書等の**防災**への活用

古来の**建築・機械技術**の解明と**現代産業**
への応用

古来の**農法、漁法**などの復活

地域のSDGs
達成にも貢献

「鹿児島県の近代」 教育研究センター

資料の整理・
デジタル化

分析・研究

人々の豊かな暮らしへの貢献

近現代研究の成果に基づく地域（**奄美**
などの離島地域を含む）の**社会・文化**
的課題の解決法の提案

5. 「鹿児島県の近代」 教育研究拠点整備事業実施スケジュール（案）

令和4年度（2022年度）

□「鹿児島県の近代」教育研究センターの設立と事業開始

- ・ 設立準備室の設置（4月中旬）
- ・ 兼務教員、客員教授、特任研究員の募集と配置（4月～9月）
- ・ 特任教員、学芸員等の採用・配置（4月～9月）
- ・ 施設・設備整備（資料収集・デジタル化開始）（4月～9月）
- ・ センター設立と記念シンポジウムの開催（10月）
→ センター事業開始
- ・ 鹿児島県の近代をテーマとした講演会・研究会（定例化）の開催（10月～）
- ・ シンポジウム開催（3月）
- ・ 論文集の刊行（3月）

□歴史資料等を活用した地域マネジメント教育研究事業の基盤整備

- ・ 地域マネジメント分野の特任教員の採用（4月～9月）
- ・ 飲食、観光業と連携した歴史資料の活用法の検討とその成果の社会実装（10月～）
- ・ 地域課題発掘のための基礎調査等に関するプロジェクトの公募と実施（6月～3月）
- ・ 事業報告書の刊行（3月）

令和5年度（2023年度）以降

□「鹿児島県の近代」教育研究センター事業の展開

- ・ 歴史資料等の収集、保存、デジタル化の推進
- ・ 鹿児島県の近代をテーマとした講演会・研究会（定例化）、シンポジウム（年2回程度）の開催
- ・ 論文集・書籍・資料集（人名辞典など）の観光
- ・ 古文書等の資料解読のための一般市民向け講座の開催（定例化）
- ・ 本学における歴史教育プログラムの開発
- ・ 地域の文化財保存事業への参画と学芸員養成プログラムの充実
- ・ 歴史資料等の観光やまちづくりへの活用法に関する研究の推進
- ・ 理系分野と連携した歴史研究・技術開発に関する研究の推進

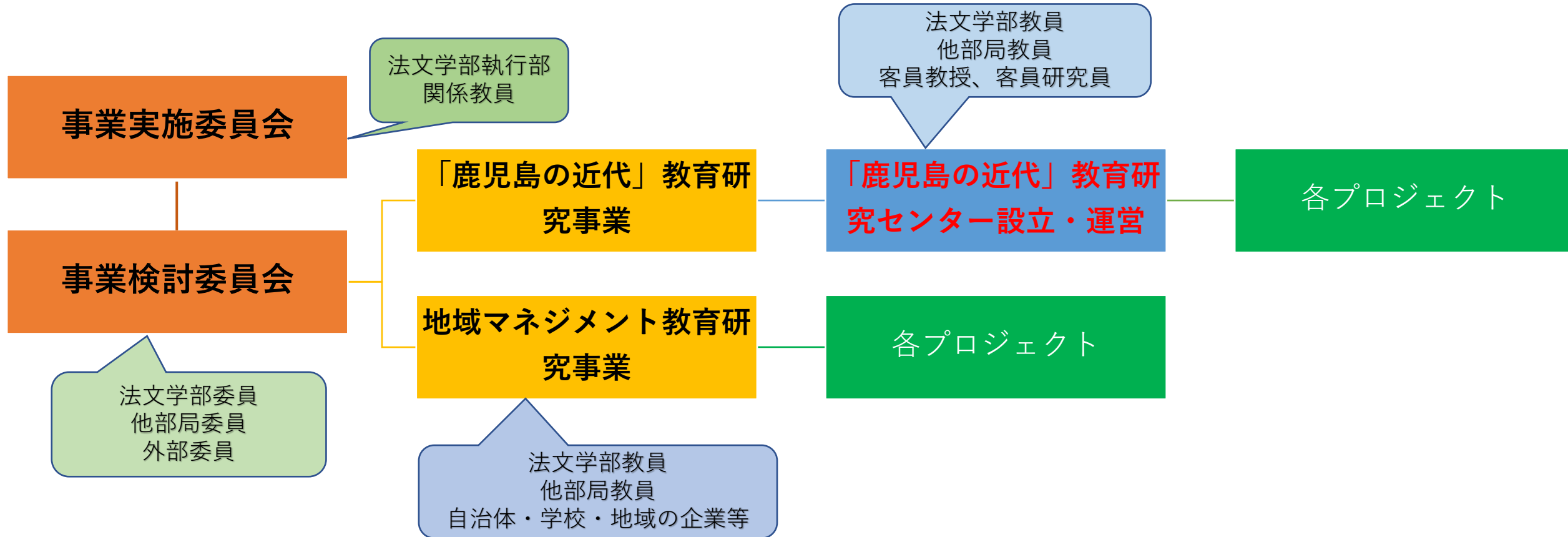
□地域マネジメント教育研究事業の展開

※プロジェクトの公募と実施

【令和5年度以降に実施予定のプロジェクトの例】

- ・ 小中高校、地域社会と連携した歴史・郷土教育の実施
- ・ 歴史資料等を活用した地域マネジメント教育の実施
- ・ 観光業との連携による歴史資料等を活用した観光旅行（教育・一般旅行）パッケージの開発
- ・ 自治体と連携による歴史資料等を活用したまちづくり、防災に関する政策の立案
- ・ 歴史資料を活用した文化・生活に係る課題解決策の立案
- ・ 産業界との連携による歴史資料を活用したSDGsの達成に向けた食品開発、農業・水産業・畜産のあり方の検討

6. 「鹿児島県の近代」 教育研究拠点整備事業の実施体制



7. おわりに

この事業に対する 私の想い

■幕末・明治維新时期を起点とする鹿児島県の「近現代」教育研究拠点整備

- ・歴史的貴重資料は時間とともに失われていきます。
 - 保存・デジタル化＝地域の貴重な財産の保全・活用の重要性
- ・地域の「知」の拠点としての鹿児島大学がこの事業をせずに誰がやるのか？

■この事業を、真の意味での「地域に開かれた大学」への歩みの一つとしたい。

- 日常生活を営む地域の皆様との関係で大学が別次元の存在になりたくない。
 - 地域の「知」の拠点としての大学を身近に利用・活用して欲しい。
- 地域の皆様とともに「鹿児島県の近現代」教育研究拠点をつくりあげ、本学の学生を含む地域の皆様のための事業を実施したい。
 - 自治体、学校、地域企業などを含む地域の皆様との架け橋

地域の魅力を高め、地域の発展や人材育成のために何に取り組むべきか、ご参加の皆様からの積極的なご意見をいただきますようお願いいたします。